



撮影：西山芳一（表紙、並びに当ページ）

伊根の舟屋

京都府与謝郡伊根町

京都府の日本海側に位置する伊根湾。その海岸線に沿って二階建ての木造住宅が海に向け身を寄せ合うように建ち並んでいる。その数、約二三〇軒。江戸時代を発祥とする「伊根の舟屋」だ。石材の基礎の上に木造の切妻造の構造で、妻側がぼっかりと海面に開かれている。柱は椎の木、梁は松材が主に用いられた。一階部分は漁師たちが自らの船を直接海から引き揚げられるよう傾斜が施された吹き抜けのガレージだ。魚網の手入れ、船の修繕や魚の干場などとしても利用されている。かつては一階建て、屋根は茅葺だったという。その後、二階を居室として使うようになった。その独特な景観はドラマや映画のロケ地としても知られている。

一帯は二〇〇五（平成十七）年に重要伝統的建造物群保存地区（重伝建）に選定されており、観光客数は年間でおよそ二五万人に達するという。しかし、観光協会が発行するパンフレットの冒頭には「伊根の舟屋は名所旧跡ではありません」と記されている。今もここに暮らす人々の日常があり、だからこそ飾り気のない、しかし独創的な漁村の町並みが訪

れる人の心を柔らかく打つのだろう。案内してくれた海上タクシーの船長は「大切な観光資源だけど生活の場でもあります。両立させながらこの景観をずっと守っていきたいんですよ」と話してくれた。舟屋群に暮らす船長はこの地区の重伝建の選定に協力した一人だ。「建物が傷んで補修しようとしても重伝建だから申請手続きも大変なんだけどね」と言っ

て相手を崩す。建設の歴史と価値を未来に残す、その大切さと難しさを彷彿させる笑顔だった。



舟屋の裏の湾に沿ってうねうねと続く道を挟んで山側に母屋が並ぶ。向かい合う母屋と舟屋には同姓の表札があった。路地で出会ったおばあちゃんは「舟屋は半分物置のようなものだったから表札なんかなかったんだよ。今は家族がちゃんと住んでいるからね。2階ではぼっちゃんぼっちゃんずっと波の音が聞こえるけど、嫌だと思ったことはないなあ」と言って笑った。